



Subscription Central 1-latest

Red Hat Subscription Management での API の 使用

Subscription Management API の認可、管理、およびトラブルシューティング

Subscription Central 1-latest Red Hat Subscription Management での API の使用

Subscription Management API の認可、管理、およびトラブルシューティング

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat サブスクリプションサービスは、Red Hat 製品に対するサブスクリプションの自動化、管理、追跡に役立つ開発および文書化された API を提供します。

目次

1. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT での API の使用	2
2. 認証でのトークンの使用	2
2.1. 新しいオフライントークンの生成	2
2.2. 新しい更新トークンの生成	3
3. 利用可能な SUBSCRIPTION MANAGEMENT API へのアクセス	4
4. API エラーのトラブルシューティング	4
4.1. エラー 403 のトラブルシューティング	5
4.2. エラー 429 のトラブルシューティング	5

1. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT での API の使用

サブスクリプションサービスで API を使用すると、次の方法で Red Hat サブスクリプションの使用状況をより効果的に追跡し、自動化できます。

- 各製品に使用するツールを制御する
- システムとサブスクリプションのインベントリーをより適切に管理する
- システムの更新とセキュリティ保護を効率化する
- Red Hat 製品の正式サポートを継続して受ける

Red Hat Subscription Management API は認可に OAuth 2.0 を使用します。トークンを取得し、API にアクセスするには、以下の情報が必要になります。

- Red Hat Subscription Manager API Tokens ページで生成されたオフライントークン
- クライアント ID = rhsm-api
- トークン URL = <https://sso.redhat.com/auth/realms/redhat-external/protocol/openid-connect/token>

2. 認証でのトークンの使用

オフライントークンと更新トークンは、シークレットを使用して Red Hat Single Sign On (SSO) アカウントを認証し、アカウントをセットアップした後に、システムを認証するために Red Hat Subscription Management によって使用されます。



警告

セキュリティのベストプラクティスに沿ったパスワード管理を使用してください。パスワードや認証情報をプレーンテキストに保存するのは危険です。オフライントークンには、パスワードを不正使用から保護するためのセキュリティ対策を同じように適用してください。

2.1. 新しいオフライントークンの生成

オフライントークンは、30 日ごとに最低 1 回使用し、Red Hat Subscription Manager API のアクセストークンを作成する場合に限り、有効期限が切れることはありません。これはパスワードとして機能し、新しい更新トークンを作成せずに引き続きアカウントを認証できます。

手順

1. [Red Hat Subscription Manager API Tokens のページ](#) にアクセスします。

コード	説明	解決方法
403	禁止されている	新しい認可トークンを生成。
404	見つからない	リソースが見つからないか、存在しない。
429	要求が多すぎる	要求頻度を減らす。
500	内部サーバーエラー	この問題は、Red Hat サイトで発生。1分待ってから再要求。

4.1. エラー 403 のトラブルシューティング

エラー 403 は認可されていないというエラーで、Red Hat Subscription Manager API に使用している認証が失敗したことを意味します。試すことができる解決策は 2 つあります。

手順

1. Red Hat サブスクリプションマネージャーのゲートウェイ経由で認証を行うには、API 呼び出しを入力する前に、認証ヘッダーに "bearer" のテキストが含まれるようにします。

```
curl -H "Authorization: Bearer <token>" <api_url>
```

2. ヘッダーが正しい場合は、新しいトークンを作成します。更新トークンは 5 分間持続します。

4.2. エラー 429 のトラブルシューティング

エラー 429 は帯域制限エラーです。つまり、お使いのアカウントで 1 秒間で許容される要求の数を超えています。この制限は、1 つの Red Hat アカウントに含まれるすべてのユーザーに適用されます。

手順

レスポンスのヘッダーを抽出します。これには、* **X-RateLimit-Limit**: (許可される要求の合計/秒) * **X-RateLimit-Remaining**: (要求の数/残りの秒 (これは負の整数になります)) * **X-RateLimit-Delay**: (リクエストが再試行するまで待機する秒数) が含まれます。

X-RateLimit-Limit 値に対する要求の帯域を調整し、X-RateLimit-Delay 時間が経過したら再度開始します。